

## 平成17年度推奨の優良映画

---

平成17年4月推奨

### 『ガラスのうさぎ』

原作：高木敏子

小学生（低学年～高学年）、中学生、高校生、青年及び一般対象

太平洋戦争末期の東京。食べ物にも困る厳しい戦時下の中、主人公の少女・敏子は、父と母、二人の妹とともに懸命に生きていた。

しかし、米軍による東京大空襲は敏子から家族を奪い去り、猛火によって形が歪んでしまったガラスのうさぎは彼女に戦争の恐ろしさを突きつける。

それでも敏子は幼い心を奮い立たせ、様々な困難にぶつかりながらも決して希望を捨てることなく、未来へ向かって歩き続ける。

戦争を知らない現代の子どもたちに、戦争の悲惨さと恐ろしさ、平和の尊さと命の大切さを伝えるこの作品は、青少年の健全な育成に役立つものである。



2005年 映画『ガラスのうさぎ』製作委員会

---

平成17年8月推奨

### 『マザー・テレサ』

制作：ルカ・ベルナベイ/配給：東芝エンタテイメント

小学生（中学年～高学年）、中学生、高校生、青年及び一般対象

「私たちの行いは大海の一滴にすぎません。でも何もしなければその一滴も永遠にうしなわれます。」（映画より。）

カトリック修道院で教鞭を取るシスター・テレサ。ある日神の声を聞いたテレサは、「自分のいるべき場所は修道院の中ではない」と、自らカルカッタの貧民街に飛び込む。

テレサの強い信念と深い愛情は国境や宗教を越え、世界中へと広がり、やがて彼女は“マザー・テレサ”と呼ばれるようになる。

何が彼女をそこまで強くしたのか？無償の愛情とは何なのか？後にノーベル平和賞を受賞し、1997年の死去の際にはインド国葬が行われるほど人々に愛されたマザー・テレサ。その生涯を描いた珠玉の作品。

主演は『ロミオとジュリエット』で世界を魅了したオリビア・ハッセー。



2003年 イタリア・イギリス映画

---

平成18年2月推奨

### 『ホテル・ルワンダ』

配給：メディア・スーツ

中学生、高校生、青年及び一般対象

1994年のルワンダ。フツ族とツチ族の対立は、ついに内戦・大虐殺へと発展し、3ヶ月で100万人もの死者を出す悲劇となった。

4つ星ホテルの支配人ポールはフツ族。ツチ族出身の妻と子供たちに囲まれ、幸せな生活を送っていたが、内戦の恐怖はその幸せをあっという間に奪い去る。

に飲み込んでしまった。フツ族から命を狙われる妻や住民たちを守るため、ポールは彼らをホテルにかくまう。ツチ族引き渡しを求める軍や民兵たちに対し、ポールは巧みな話術と機転を生かし、約1200人の命を守り抜いた。

虐殺と愛情、相反する人間の姿を鮮明に描き、アフリカ版『シンドラーのリスト』と評されたこの作品は、青少年の人間的な愛情を育て、豊かな人格形成に役立つものであり推奨に値する。



[公式HPへ](#)

2004年 南アフリカ・イギリス・イタリア映画